

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3671300444		
法人名	医療法人敬和会		
事業所名	グループホーム那賀川たんぽぽ		
所在地	徳島県阿南市那賀川町今津浦宮内71-1番地		
自己評価作成日	令和5年2月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	令和5年3月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

静かな田園風景の中、季節の移り変わりを楽しんで頂きながら家庭的な温かい雰囲気の中で穏やかに過ごしていただける様に努めています。利用者と職員が何でも話せるような関係づくりを目指し信頼関係を築ける様支援しています。いちばんの楽しみは食事で行事や、季節、好みに合わせた献立を立て、旬の食材を使い一人ひとりの体調や嚥下状態に合わせた食事を提供し、台所からの調理の音や匂いを感じながら食事を楽しんで頂いています。外出や面会は自粛中ですがドライブや施設内でたんぽぽ祭りをを行いゲームや歌・阿波踊り等出来る事を工夫しています。医療との連携も整い、医師や訪問看護と情報交換を行い相談援助により利用者の健康管理に繋げています。職員や利用者が共に笑顔で過ごせる様務めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所では、“高齢者の尊厳をお守りし、家庭的な生活をお手伝いします。”、“地域の皆様と連携し地域に貢献する事を目指します。”という2つの理念を掲げている。理念にもつき、利用者一人ひとりの意向や希望にそった支援を第一に考え、食事の献立や入浴・排泄の希望など、本人本位の支援に取り組んでいる。毎月、生活支援や行事予定等について、職員間で協議・検討するとともに、計画策定についても職員の参画を得るなど、組織的に取り組んでいる。また、地域の関係者や関係機関とも密に連携し、理念の実現に向けて積極的に交流を図っている。新型コロナウイルス感染症の流行下においても、近隣住民・民生委員・市役所・警察などと連絡を取りつつ、会議や避難訓練等を実施し、利用者が地域と繋がりがつつ暮らすことができるよう、関係性の継続に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1F 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月初めの朝礼時に理念を唱和し、理念の意味を振り返っている。ユニット毎に理念を掲示し職員に意識づけを行い実践に繋げるよう務めている。	事業所では、地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を掲げている。玄関や各ユニットに理念を掲示しつつ、申し送り等の機会に、職員間で共有化を図り、日ごろの支援の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナの関係で以前よりも交流の機会は減っているが毎月の事業所便りの配布を行い、会話や情報交換を行っている。地域の民生委員や駐在所の警察官とも継続して交流が出来るよう務めている。	事業所は、地域の一員として、日常的に近隣住民等と交流している。感染症(コロナ等)の流行下においても、地域の民生委員や駐在所を訪問し、交流・情報交換を行っている。また、毎月、事業所だよりを近隣住民にも配付し、関係性の継続に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナで交流は減っているが運営推進会議や日頃の近所付き合い等で認知症への理解や利用者の暮らしぶりを理解して頂ける様に務めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度運営推進会議を行っている。コロナの関係で書面により事業所の活動内容や報告を行っている。直接や電話等で意見や、感想要望等を伺いサービスの向上に繋げている。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。感染症の流行下においては、書面会議を実施している。各委員のもとに報告書を持参し、意見・要望・感想等を聞き取っている。出された意見等は、サービスの質の向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市窓口担当を訪問し事業所の利用状況や活動状況を伝えている。質問や相談はその都度対応して頂いている。	日ごろから、職員は、市の担当窓口を訪問し、事業所の実績や利用者の様子等を報告している。運営上の課題や制度変更等について、助言を得るなど、協力関係を築いている。また、地域包括支援センターからも、研修や行事の案内を受けるなど、連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営推進会議の度に身体拘束適正化委員会、年に2回身体拘束についての研修会を行っている。その度に全職員が自分のケアを見直し、利用者がその人らしい生活が出来る様取りくんでいる。	事業所では、定期的に、身体拘束に関する研修会や委員会を実施し、拘束の内容や弊害について、職員間での共有化を図っている。日中は玄関を解錠し、ユニット間も自由に行き来できるなど、利用者の自由な暮らしの支援に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員研修を通じて何が虐待になるか等理解を深め、職員それぞれが介護内容を見直し、意見を出し合い虐待の防止に務めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1F 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市や民生委員等、研修や資料により情報や知識を得て必要とされる利用者に活用出来る様に務めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族や利用者に十分に説明を行い、理解納得され、同意を得た上で契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段より利用者や家族が話しやすい雰囲気や関係づくりに努めている。コロナにより直接会話する機会は減ったが毎月支払い時等の来苑時に意見や要望を伺い職員全員が把握共有し、運営や支援に反映出来る様務めている。	事業所では、日ごろから、利用者に関わる時間を大切に捉え、意見や要望等を聞き取っている。家族等については、毎月、利用料支払い等で来訪した際に、意見等を確認している。随時、電話による確認も行っている。出された意見等について、職員間で話しあい、運営面に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は毎朝のミーティング時や月末の反省会で意見交換を行っている。その都度意見やアイデアを聞き意見を出し合って試してみても運営や支援に繋げている。	管理者は、日ごろから、職員と積極的にコミュニケーションを図り、意見や提案等を出しやすい雰囲気づくりに努めている。毎月、支援の反省会を実施し、意見等を出す機会を設けている。出された意見等をもとに、職員の参画を得つつ、支援について検討するなど、組織的に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人ひとりの実績や努力を昇給に反映させ、意見や要望を言いやすい雰囲気づくり、向上心ややりがいを持って仕事出来る様務めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月交代で施設内研修を行っている。交代する事で自分事となりそれぞれの意識や技術、知識の向上に繋げている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月に一度の合同カンファレンスで、同系列のグループホームと情報や意見交換を行いサービスの質の向上に繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1F 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する以前よりご家族や本人と話し合いを行って不安や要望を伺っている。何でも話し合えて、安心して生活が出来る様務めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入する以前よりご家族と話し合い不安や困っていることを伺い、いつでも要望や意見を出して頂けるような関係づくりに務めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族と話し合い、必要なサービスを見極め安心して利用していただけるよう務めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活する中で、利用者一人ひとりの顔を見て状態が判断でき、家族のように喜怒哀楽を分かち合えるような関係づくりに務めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と共に本人にとってどうしたらいいのかを考え支援出来る様務めている。毎月事業所便りで利用者一人ひとり担当の職員が日々の様子や気づきを伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在は外出・面会は自粛中だが様子を聞きに来られる知り合いや友人の訪問もある。携帯電話で話されている利用者もいる。また、ドライブ等で馴染みの場所へ行けるよう支援している。	事業所では、利用者の馴染みの人や場との関係継続に向けて支援に取り組んでいる。希望に応じて、電話や手紙のやり取りを支援している。また、利用者の自宅の近くや畑、神社など、馴染みの深い場所へドライブに出かけるなど、一人ひとりにあわせた支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人ひとりの性格や関係を見極め席を決め、共に生活をする中で、会話の中に入ったり、見守りしながら孤立せずに共に生活を楽しめる様支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1F 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も必要に応じて相談や支援を行い、他の事業所に移る場合も情報交換を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活の中でその時々々の状況、様子から意向や希望を読みとり把握出来る様に務め、その人が望む生活が出来る様支援している。	職員は、日ごろの支援のなかで、利用者の思いや意向等の把握に努めている。コミュニケーションを大切に捉え、表情や動作、感情の変化などを見逃さないよう心がけている。把握した情報は、職員間で共有化を図り、支援につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や本人との会話から情報収集を行い、信頼関係を築きながらその人らしい生活をしていただける様務めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の顔を見たらわかる程一人ひとりの心身状態の把握に努め、確認・記録を行い職員全員が共有している。毎日の生活の中で小さな気づきや有する力を見つけ活かせる様務めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	週に一度ケアカンファレンスを行い、家族や職員の気づきを基に、意見やアイデアをだし、医師や看護師等の意見を聞きながら介護計画に反映し、3ヶ月毎に見直しを行っている。	事業所では、利用者や家族等の意向を踏まえた介護計画を作成している。一人ひとりの状況に応じて、医師や看護師等の助言も得ている。3か月ごとに、計画を見直すとともに、随時、心身状況の変化に応じて見直すなど、現状に即した計画となるよう取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者一人ひとりの個人ファイルを作成し毎日の体調や様子、状況、気づき等を記録し職員全員が情報を共有しながら日々のケアに繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族との連携を図り、その時々々に応じたサービスが提供出来る様に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1F 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在は書面で行っているが、運営推進会議には警察官、民生委員、市役所や地域包括支援センターの職員、婦人会、ご近所の方等が参加して情報交換を行い協力体制を築いて利用者が安心して暮らせる様務めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医の訪問診療があり、緊急時の協力体制も整っている。協力歯科の訪問診療もあり協力医療機関で受診される家族が多い。耳鼻科等専門医を受診される時は家族や職員が付き添っている。	事業所では、多くの利用者が協力医療機関をかかりつけ医としている。週2～3回の往診とあわせて、緊急時の対応体制も整備するなど、連携・協力を図っている。また、専門医等を受診する際は、家族等の協力を得ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は日頃の利用者の体調の変化や異常の早期発見に努め、看護職や訪問看護と連携し援助を受けている。訪問看護と24時間連携体制を整えており適切な医療支援を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関との連携が充実しており入院時は家族と相談し安心して入院治療が出来る様支援している。他の医療機関に入院する場合は本人に対する情報提供を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の方針については契約時に本人や家族に説明を行い同意を得ている。状態に応じて医師、看護、家族との連携を図りながら家族の希望に応じた支援が出来る様務めている。	事業所では、契約時の段階で、重度化や終末期の指針について、利用者や家族等に説明し、同意を得ている。年1回、重度化等に関する研修会を開催するなど、サービスの質の向上に取り組んでいる。本人の心身状況の変化に応じて、家族等の意向を踏まえつつ、協力医療機関と連携を図り、チームで支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変時や事故発生時は適切な対応や連絡が出来る様常に話し合いを行っている。職員研修時等定期的に訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災、避難訓練を行っている。その都度出た問題点や気づきを出し合っている。日頃からご近所の方々や警察官、民生委員等とも協力体制も築いている。食料品や飲料水等も準備している。	事業所では、年2回、火災や地震、津波等を想定した避難訓練を実施している。地域の消防団等の協力を得つつ、消防器具の点検や使用方法を確認している。また、食料等の備蓄も5日分準備し、災害時に備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1F 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	高齢者の尊厳をお守りしますという理念を基に、利用者は人生の先輩だという気持ちで、全職員が利用者の立場になった支援が出来る様な言葉かけや対応に務めている。	職員は、利用者一人ひとりのプライバシーに配慮した支援に努めている。誇りや尊厳を尊重しつつ、声の大きさ等にも配慮し、日ごろの支援に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の生活の中で利用者一人ひとりの状況や、性格、嗜好を把握し、表情や動き、会話等から希望や思いを理解出来る様務めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご自分のペースで生活をされている利用者もいるが、職員側の決まりや業務等の都合を優先させてしまっている時がある。利用者一人ひとりのペースに合わせ、希望に沿った生活が出来る様支援したい。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	以前は事業所に美容師が出向いてくれたがコロナの為職員がカットしている。衣類交換時本人に着る服を選んでもらう等利用者一人ひとりの好みに合わせた見だしなみ出来る様支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎回、手作りの食事で、食事は利用者一番の楽しみであり、毎朝献立を楽しみにして下さっている。季節や行事、体調や病状に合わせた食事を提供している。利用者と一緒に豆の皮むきや干し柿等も作っている。	食事は、三食、手作りのものを提供している。日ごろの支援のなかで、利用者の好みを聞き取りつつ、栄養バランスに配慮して、メニューを考えている。誕生日食は利用者の好きな物を作ったり、季節ごとに行事食を作ったりして、食事が楽しみなものとなるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の嚥下状態や体調、病状に合った食事内容、食器等工夫している。利用者一人ひとりの食べ方、好みや習慣等を把握して食事を提供している。食事量、水分量、体重のチェック表に記入し全職員が把握共有している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎回口腔ケアを行っている。自力で出来る人は見守り、出来ない人は介助している。毎週水曜日に入れ歯洗浄剤を使い清潔に気をつけている。施設外の口腔ケアの研修会に参加して学び実践に繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1F 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し利用者一人ひとりの排泄パターンを全職員が把握し、それを基にトイレ誘導や水分調整を行っている。ポータブルトイレの使用等それぞれの身体機能に応じたトイレ介助を行っている。	事業所では、排泄チェック表を活用し、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握している。把握した情報にもとづき、できる限りトイレで排泄することができるよう支援している。必要に応じて2人介助を行うなど、個別の状況に配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を活用し利用者一人ひとりの排便の状況を全職員が把握している。毎朝乳製品を提供し、食事は野菜を多く取り入れている。生活活動や機能訓練により運動不足の改善に務めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回入浴して頂いています。利用者一人ひとりの希望や体調に合わせて入浴を行いシャワー浴、チェアー浴、足浴を行い菖蒲湯や柚子湯も楽しまれています。拒否される方には言葉がけやタイミングを工夫しています。	事業所では、週3回は入浴できるよう支援している。利用者の希望や心身状況等にあわせて、シャワー浴や足浴等も行っている。浴室で職員と会話したり、入浴後にスポーツドリンクを提供したりして、入浴が楽しみなものとなるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者一人ひとりの生活習慣を把握、見直して、日中の過ごし方やかわり方を考えその人に合った生活リズムにより安心して眠れるよう務めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者一人ひとりの服薬ファイルを作成し全職員が服薬の方法、効能、副作用等を把握し共有している。服薬時はきちんと飲んでいるか確認を行い薬の変更時は体調、症状の変化に気をつけ医師や看護師に情報提供を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で得意な分野を見出しお手伝いをして頂いている。掃除機をかけたリ、洗濯たたみ、縫い物等利用者の知恵や経験を活かした生活ができる様支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナで外出は自粛中ですが以前は買い物や外出に出掛けていました。ドライブして車の中から景色を楽しんだり、近くの散歩や事業所の庭で外気浴を行う等今できることを工夫し実践しています。	事業所では、日常的な外出支援に取り組んでいる。感染症の流行下においても、安全面に配慮しつつ、桜や菖蒲、コスモスなどの季節の花を見に行ったり、初詣に出かけたりするなど、利用者の生きがいに繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1F 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と相談し希望や能力に応じてそれぞれの管理方法を決めています。買いたいものや必要なものにお金が使えよう支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を使われている方も何人かおり家族や友人と電話をされている。家族の協力を得ながら電話や手紙のやりとりの支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や庭には季節の花や観葉植物を置き季節を感じて頂いている。少しだが季節に合った野菜をプランターで育てて成長と収穫を楽しんでいる。台所の調理の匂いや音により生活を感じて頂いている。	共用空間は、採光や室温に配慮し、家庭的な雰囲気づくりを行っている。花や観葉植物、飾りつけ等により、季節を感じることができるようになっている。また、定期的な換気やパーティションの設置などにより、安全面にも配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者が話ができる様テーブルの席の場所にも配慮している。ホールのソファでくつろいだり外を眺めたりしてそれぞれの時間を楽しく頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者の使っていた家具や電気製品、好きなものを持ち込んでもらい、安心して居心地よく生活出来る様務めている。和室と洋室があり生活歴や身体状況等により配慮している。	居室には、利用者の馴染みの家電や家具、小物等を持ち込んでもらっている。生活習慣や身体状況等にあわせて、和室・洋室を選ぶことができるようになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室等場所がわかる様に名前を書く等一人ひとりに合わせた生活が出来よう職員が意見を出し合い工夫して安全な環境づくりに務めている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2F 実践状況	実践状況	実践状況
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニット毎に理念を掲示し、意識づけを行い実践に繋げている。月初めの朝礼時に理念の唱和を行い理念の共有している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	コロナの関係で以前よりも交流の機会は減っているが毎月の事業所便りの配布を行い、会話や情報交換を行っている。地域の学校の古紙回収時には集めておいた段ボールを出し交流に繋げている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナで交流は減っているが運営推進会議や日頃の近所付き合い等で認知症への理解や利用者の暮らしぶりを理解して頂ける様に務めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度運営推進会議を行っている。コロナの関係で書面により事業所の活動内容や報告を行っている。直接や電話等で意見や、感想要望等を伺いサービスの向上に繋げている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市窓口担当を訪問し事業所の利用状況や活動状況を伝えている。質問や相談はその都度対応して頂いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営推進会議の度に身体拘束廃止委員会、年に2回身体拘束についての研修会を行っている。その度に全職員が自分のケアを見直し、利用者がその人らしい生活が出来る様取りくんでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員研修を通じて何が虐待になるか等理解を深め、職員それぞれが介護内容を見直し、意見を出し合い虐待の防止に務めている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2F 実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市や民生委員等、研修や資料により情報や知識を得て必要とされる利用者に活用出来る様に務めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族や利用者十分に説明を行い、理解納得され、同意を得た上で契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段より利用者や家族が話しやすい雰囲気や関係づくりに努めている。コロナにより直接会話する機会は減ったが毎月支払い時等の来苑時に意見や要望を伺い職員全員が把握共有し、運営や支援に反映出来る様務めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は毎朝のミーティング時や月末の反省会で意見交換を行っている。その都度意見やアイデアを聞き意見を出し合って試してみても運営や支援に繋げている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人ひとりの実績や努力を昇給に反映させ、意見や要望を言いやすい雰囲気づくり、向上心ややりがいを持って仕事が出来様務めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月交代で施設内研修を行っている。交代する事で自分事となりそれぞれの意識や技術、知識の向上に繋げている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月に一度の合同カンファレンスで、同系列のグループホームと情報や意見交換を行いサービスの質の向上に繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	2F	自己評価	自己評価
			実践状況		実践状況	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する以前よりご家族や本人と話し合いを行って不安や要望を伺っている。何でも話し合えて、安心して生活が出来る様務めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入する以前よりご家族と話し合い不安や困っていることを伺い、いつでも要望や意見を出して頂けるような関係づくりに務めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族と話し合い、必要なサービスを見極め安心して利用していただけるよう務めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活する中で、利用者一人ひとりの顔を見て状態が判断でき、家族のように喜怒哀楽を分かち合えるような関係づくりに務めている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と共に本人にとってどうしたらいいのかを考え支援出来る様務めている。毎月事業所便りで利用者一人ひとり担当の職員が日々の様子や気づきを伝えている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在は外出・面会は自粛中だが様子を聞きに来られる知り合いや友人の訪問もある。電話で話されている利用者もいる。また、ドライブ等で馴染みの場所へ行けるよう支援している。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人ひとりの性格や関係を見極め席を決め、共に生活をする中で、会話の中に入ったり、見守りしながら孤立せずに共に生活を楽しめる様支援している。			

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2F 実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も必要に応じて相談や支援を行い、他の事業所に移る場合も情報交換を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活の中でその時々状況、様子から意向や希望を読みとり把握出来る様に務め、その人が望む生活が出来る様支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や本人との会話から情報収集を行い、信頼関係を築きながらその人らしい生活をしていただける様務めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の顔を見たらわかる程一人ひとりの心身状態の把握に努め、確認・記録を行い職員全員が共有している。毎日の生活の中で小さな気づきや有する力を見つけ生かせる様務めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	週に一度ケアカンファレンスを行い、家族や職員の気づきを基に、意見やアイデアをだし、医師や看護師等の意見を聞きながら介護計画に反映し、3ヶ月毎に見直しを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者一人ひとりの個人ファイルを作成し毎日の体調や様子、状況、気づき等を記録し職員全員が情報を共有しながら日々のケアに繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族との連携を図り、その時々に応じたサービスが提供出来る様に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2F 実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在は書面で行っているが、運営推進会議には警察官、民生委員、市役所や地域包括支援センターの職員、婦人会、ご近所の方等が参加して情報交換を行い協力体制を築いて利用者が安心して暮らせる様務めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医の訪問診療があり、緊急時の協力体制も整っている。協力歯科の訪問診療もあり協力医療機関で受診される家族が多い。耳鼻科等専門医を受診される時は家族や職員が付き添っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は日頃の利用者の体調の変化や異常の早期発見に努め、看護職や訪問看護と連携し援助を受けている。訪問看護と24時間連携体制を整えており適切な医療支援を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関との連携が充実しており入院時は家族と相談し安心して入院治療が出来る様支援している。他の医療機関に入院する場合は本人に対する情報提供を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の方針については契約時に本人や家族に説明を行い同意を得ている。状態に応じて医師、看護、家族との連携を図りながら家族の希望に応じた支援が出来る様務めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変時や事故発生時は適切な対応や連絡が出来る様常に話し合いを行っている。職員研修時等定期的に訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災、避難訓練を行っている。その都度出た問題点や気づきを出し合っている。日頃からご近所の方々や警察官、民生委員等とも協力体制も築いている。食料品や飲料水等も準備している。		

自己	外部	項目	自己評価	2F	自己評価	自己評価
			実践状況		実践状況	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	高齢者の尊厳をお守りしますという理念を 基に、利用者は人生の先輩だという気持ち で、全職員が利用者の立場になった支援が 出来る様な言葉かけや対応に務めている。			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自 己決定できるように働きかけている	毎日の生活の中で利用者一人ひとりの状 況や、性格、嗜好を把握し、表情や動き、会 話等から希望や思いを理解出来る様務めて いる。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのよう に過ごしたいか、希望にそって支援している	ご自分のペースで生活をされている利用者 もいるが、職員側の決まりや業務等の都合 を優先させてしまっている時がある。利用者 一人ひとりのペースに合わせ、希望に沿っ た生活が出来る様支援したい。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように 支援している	以前は事業所に美容師が出向いてくれて いたがコロナの為職員がカットしている。衣 類交換時本人に着る服を選んでもらう等利 用者一人ひとりの好みに合わせた見だしな みが出来る様支援している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好み や力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備 や食事、片付けをしている	毎回、手作りの食事で、食事は利用者一番 の楽しみであり、毎朝献立を楽しみにして下 さっている。季節や行事、体調や病状に合 わせた食事を提供している。利用者と一緒に 豆の皮むきや干し柿等も作っている。			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて 確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応 じた支援をしている	利用者の嚥下状態や体調、病状に合った食事 内容、食器等工夫している。利用者一人ひとりの 食べ方、好みや習慣等を把握して食事を提供し ている。食事量、水分量、体重のチェック表に記 入し全職員が把握共有している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一 人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケ アをしている	毎食前に口腔体操を行っている。食後は声 かけを行い、一人ひとりに合った口腔ケアの 支援をしている。			

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2F 実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し利用者一人ひとりの排泄パターンを全職員が把握し、それを基にトイレ誘導や水分調整を行っている。ポータブルトイレの使用等それぞれの身体機能に応じたトイレ介助を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を活用し利用者一人ひとりの排便の状況を全職員が把握している。毎朝乳製品を提供し、食事は野菜を多く取り入れている。生活活動や機能訓練により運動不足の改善に務めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回入浴して頂いています。利用者一人ひとりの希望や体調に合わせて入浴を行いシャワー浴、チェアー浴、足浴を行い菖蒲湯や柚子湯も楽しませています。拒否される方には言葉がけやタイミングを工夫しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者一人ひとりの生活習慣を把握、見直して、日中の過ごし方やかわり方を考えその人に合った生活リズムにより安心して眠れるよう務めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者一人ひとりの服薬ファイルを作成し全職員が服薬の方法、効能、副作用等を把握し共有している。服薬時はきちんと飲んでいるか確認を行い薬の変更時は体調、症状の変化に気をつけ医師や看護師に情報提供を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で得意な分野を見出しお手伝いをして頂いている。掃除機をかけたリ、洗濯たたみ、縫い物等利用者の知恵や経験を活かした生活が出来る様支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナで外出は自粛中ですが以前は買い物や外食に出掛けていました。ドライブして車の中から景色を楽しんだり、近くの散歩や事業所の庭で外気浴を行う等今できることを工夫し実践しています。		

自己	外部	項目	自己評価	2F	自己評価	自己評価
			実践状況		実践状況	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と相談し希望や能力に応じてそれぞれの管理方法を決めています。買いたいものや必要なものにお金を使える様支援しています。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を使われている方も何人かおり家族や友人と電話をされている。家族の協力を得ながら電話や手紙のやりとりの支援をしている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や庭には季節の花や観葉植物を置き季節を感じて頂いている。少しだが季節に合った野菜をプランターで育てて成長と収穫を楽しんでいる。台所の調理の匂いや音により生活を感じて頂いている。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者が話ができる様テーブルの席の場所にも配慮している。ホールのソファでくつろいだりそとを眺めたりしてそれぞれの時間を楽しんで頂いている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者の使っていた家具や電気製品、好きなものを持ち込んでもらい、安心して居心地よく生活出来る様務めている。和室と洋室があり生活歴や身体状況等により配慮している。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室等場所がわかる様に名前を書く等一人ひとりに合わせた生活が出来る様職員が意見を出し合い工夫して安全な環境づくりに務めている。			